

第76回入学式 校長式辞

令和3年4月8日

春の光が満ち溢れ、木々の芽吹きに生命の躍動を感じる、素晴らしい季節です。

ただ、現在兵庫県には、コロナウイルス感染拡大にかかる「蔓延防止等重点措置」が適用されています。入学式も、様々な制約により、例年どおりの形で行うことはできません。しかし、保護者の皆様のご理解をいただき、本日ここに、兵庫県立神戸高等学校第76回入学式を挙行できますことは、昨年入学式が実施できなかった私ども教職員にとって、本当に大きな喜びでございます。皆様に厚く御礼申し上げます。

また、ご多忙の中、酒居同窓会長様、兪PTA会長様には、ご来賓の代表として、ご臨席を賜りました。誠にありがとうございました。

さて、先ほど入学を許可した、360名の皆さん、ご入学おめでとうでございます。今日から皆さんは、神戸高校76回生として、本校で3年間を過ごします。

皆さんをお迎えするこの神戸高校は、明治29年に兵庫県神戸尋常中学校として開校、明治34年に開校した兵庫県高等女学校とともに幾多の変遷を経て、この二校が昭和23年の学制改革により統合して、現在の兵庫県立神戸高等学校となりました。

明治から続く長い歴史の中で、「質素剛健」「自重自治」の四綱領のもと、皆さんの先輩たちは、熱い青春を過ごしてきました。卓越した歴史と伝統、威風堂々とした学舎。皆さんが、神戸高校生になった喜びはひとしおであると思います。この感動を忘れず、どうか、充実した素晴らしい3年間を過ごしてってください。

ところで、皆さんにとって、神戸高校生になることは、人生の目的ではありません。

では、人生の目的とは何か。私は、人類に貢献することだと思っています。だから、人の役に立っていると思ったとき、人は喜びを感じ、人類の一員である自分を磨き高めていると思うとき、充実感を持つのだと思います。違う言葉で表現するならば、社会貢献と自己実現です。加えて、神戸高校で学ぶ皆さんには、いずれは社会の様々なところで、世の中を牽引する人として、世の中を支える人として、社会貢献をしてほしいと思います。

現在、コロナ禍収束の見通しはまだたっていません。また、ICTやAI等の急激な進歩に伴い、未来の姿を予測することが困難な時代を迎えています。

詩人、高村光太郎は、『道程』という詩の中で、「僕の前に道はない 僕の後ろに道はできる」と言いました。皆さんには、人々の先頭に立って藪をかき分けながら進む人のように、未来への道を切り拓き、自分の後に続く人々のため道を作っていく人になってほしいと思います。

そのために、皆さんに、この三年間、心にとどめておいてほしい三つのことを話します。

まず、積極的に学ぶ姿勢を持ち続けてほしい、ということです。本校校歌の中に「きわむる 自然 人文の真理」という一節があります。皆さんはこれから、しっかりと知識を蓄え、そして知恵へと高めていかなければなりません。知恵とは、知識を必要な場面で活用できる能力です。

昨今の社会情勢を見てみると、感染症、地震・豪雨などの自然災害、エネルギー・環境などの諸問題、思想的対立・武力紛争等、知識だけでは答えがみつからない難しい課題が山積しています。だからこそ、知恵を持って考えることが必要です。解決に向けて一歩でも進んでいくことは、未来を切り開く皆さんの使命だと思います。

第二は、部活動や学校行事、自治会活動等に積極的に参加してほしい、ということです。

神戸高校の教育を表す言葉に、「全人教育」と「鍛錬主義」というものがあります。勉強だけではなく、いろいろなことに全力で取り組むのが神戸高校の伝統です。学校行事の多さは他校に負けていません。ここ神戸高校では、皆さんが輝くことのできる様々なステージを用意しています。皆さんは、可能性の塊です。自分のまだ知らない自分の素晴らしい力をぜひ本校で発見してください。

そして第三は、先ほど紹介した、本校の四綱領「質素剛健」「自重自治」を実践してほしいということです。本校では、この四つの生徒が守るべき基本方針を、四綱領と言っています。「質素剛健」は、真面目で実直、勇気あることです。「自重自治」は、自らの使命を重んじ、品性を保ち、自らが定めたことによって自らの行為を律することを言います。これこそが、長年引き継がれてきた、神戸高校生、神高生のあるべき姿なのだということを、忘れないでいてほしいと思います。

さて、保護者の皆様。本日は誠にありがとうございます。皆様の大切なお子様を本校の生徒として、本日よりお預かりいたします。私ども教職員一同、全力をあげて、お子様の育成に取り組む所存でございます。本校の教育にご理解とご協力を賜り、家庭と学校が連携して子供たちの成長を支援して参りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

ところで、本校では昔から、生徒たちのことを「鵬雛」と呼んでいます。鵬は横綱白鵬の鵬の字を、雛はひな鳥のひなの字を書きます。すなわち、おおとりのひなです。

この鵬は中国に伝わる伝説の鳥です。中国の古典「莊子」によれば、とてつもなく巨大な鵬は、北の果てから、海上を三千里飛び、旋風に乗って九万里の高さに上り、南の果ての海へと向かうということです。これを図南鵬翼といい、転じて、大志を抱き、大事業をなそうとすることをいいます。本校に入学した皆さんは、いずれおおとりへと成

長する、そのひなになったのです。

限りない可能性を持った皆さん、志を高く持って大空へ飛び立つ準備を、これから本校でしてってください。私たち教職員は、そのために、努力を惜しみません。

皆さんが、これから本校で充実した三年間を過ごし、ゆくゆくは鵬となって、日本へ、世界へ羽ばたいていかれることを祈念して、式辞とします。